

Chance for an Asian Opening towards Omnilateralism

「汎地球主義」への移行の契機

ウオルフガン・パーペ

^{space} 国際社会のグローバル・ガバナンスの最高機関である国連は、設立された1945年の51か国から現在の193か国に加盟国が大幅に増大しています。しかし、世界の民主主義国家と同様に、国連の発展は加盟国数に留まり、その権力や効率性ではないようです。国連が今年で創立75周年を迎える中、約1世紀にわたって、新たな世界秩序を形成しようとする試みが、とりわけ、国際連盟そして国連の拠点を通じて、著しくブランド化に成功した「多国間主義」の下に展開されました。しかし、本当に普遍的な世界秩序をどこまで構築できたのでしょうか？

現在の多国間の「世界秩序」は、実際には、すべての人々によって共有されているわけではありません。むしろ、それは基本的に1648年のウェストファリア体制の規範によって形成された、国民国家を名乗る国家主権による、統治という限定的な秩序です。特定の主要諸国は、この単なる多国間システムからさへも脱退し、自らの閉鎖性を強めたり、代替システムにより挑戦し、「脱西洋化」の流れに掉さそうとしています。

過去の西欧諸国の植民地主義によって世界に課せられた歴史的な異常事態の下で、ほとんどの「国」は今日も自国内での強制力の独占により主権を保持しています。狭い視野の国内政治家は、自国の経済にもたらされているグローバル化による高い相互依存関係を否定しています。国の制限により、国境を越えて国境を越えて広く支配されていない世界市場が「多国籍企業」 - 特に政治的に重要なメディア - の強力なアメリカのGAF Aと中国のBATXに「勝者はすべてのライバルを取る」ことになります。

実際、今日では、グローバル社会のさまざまな発展により、統治の中核となる国家からの権限が大幅に削り取られています。その代わりに、より広い大陸レベル、さらにはグローバルレベルでの意思決定が切実に必要とされています。貿易と金融を通じた世界的な相互依存に加えて、国境を越えたテロやパンデミック、通信におけるデジタル上の「距離の喪失」、インターネットによるサイバースペース、宇宙の探査、公海上の交通、そして深海採掘、気候や環境などの世界共通の商品、EUのような持続的な平和のための超国家性が存在します。これらの幅広い問題への意識はますます高まっています。国を超えた解決策は、各国が独自に達成することは出来ません。国々の能力欠如と協力の欠如により、この相互依存に対処するための相互依存の多大なる可能性を生みました。それは、単なる多国間主義よりも幅広い包

括への道を開き、包括的な全方向的な「汎地球主義」への道を開くことになりま
す。

ただし、現在のシステムでは、市民社会や他のさまざまな正当なグループからの
主要な非国家関係者が、共通の世界的利益のための決定において責任を負うことを
不可能にしています。したがって、グローバル・ガバナンスを強化するために変革
する必要があることは、現在の意思決定の票をただ単に一国一票で定めるのではな
く、南太平洋の小国であるナウルとは異なる巨大な中国などを考慮に入れる必要
があります。また関係するすべての責任ある利害関係者による全世界的な参加のた
めに、より広いグループの声に国のみの投票の現在のシステムをさらに開かなけれ
ばなりません。これらの声は今日、若い世代の間で最も顕著ですが、それでも国内
および世界的な政策決定をするにあたっての参加は拒否されてきました。グローバ
ルな秩序を単なる多国間の秩序からもっとオープンで包摂的、すなわちオムニラテ
ラルな秩序へと移行させるためには、非西洋世界の社会的に積み上げられてきた慣
習と実証済みの価値観を深く取り入れていく必要があります。

したがって、汎地球主義に基づいて、グローバル・ガバナンスは、例えばキリス
ト教の人間中心主義における単純な思考方法に、もはや限定されず、仏教の輪廻転
生の概念にも導かれます。不平等と闘うためのイスラム銀行のより多くの社会的要
素は、私たちの社会の二極化を克服するために、相互和解のアフリカの経験と同様
に、考察を見つけることができます。すべての大陸の地域統合（EU、ASEAN、
AU、メルコスールなど）と国家主権の結合は、より高いレベルの統治における超国
家的協力への足がかりとなるはずで

す。国際連盟の失敗と現在起こっている国際連合の弱体化から学んでいる人々とその政
治家は、グローバルな利益を包摂した民主主義、つまり総体的なオムニバス
(omnibus)で(omnilateralism)への道を開くべきです。

--

本: Wolfgang Pape, "Opening to Omnilateralism: Democratic governance for all, from local to global with
stakeholders, 汎地球主義 全辺主義" AuthorHouse UK, Bloomington 2021, 590 p.